

## ショパンの装飾音

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 静岡大学教育学部 公開日: 2014-07-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 柳沢, 信芳, 笹瀬, 奏子, 森角, 敦 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00007859">https://doi.org/10.14945/00007859</a>

## ショパンの装飾音

Chopin's ornament

柳 沢 信 芳・笹 瀬 奏 子<sup>1)</sup>・森 角 敦<sup>2)</sup>

Nobuyoshi YANAGISAWA, Kanako SASASE and Atsushi MORIKAKU

（平成 25 年 10 月 3 日受理）

### I. はじめに

ショパンの装飾音について、いろいろな演奏家を通して聴くとき、そこに一致した奏法をみることはまれである。生誕200年を経た現在、その年月の隔たりの中に変遷していったもの、及びショパンの作品が当時ヨーロッパ諸国に伝わっていく中で、それぞれの地域にはぐくまれてきた演奏様式の影響を受けながら伝播していったことも考えられる。

ショパンの装飾音についての多種にわたる楽譜及び書物には、ある根拠に基づいて装飾音の奏法を示しているが、実際の演奏においては必ずしもそれに準拠しているとはいえないようである。それぞれの演奏家の解釈にはそれなりの根拠があるものと思われるが、その説明までは演奏からは解明できないものがある。そこには単に「良い」「悪い」といったことでは紐解けないものがありそうである。ショパンの時代から現在に至るまで、この期間には様々な変化がヨーロッパにあった。政治の変遷、演奏様式の変遷、楽器の改良、芸術文化の時代様式の変化、など。

ショパンの装飾音についてみると、モルデント一つ取り上げてもそこにはいろいろな問題が含まれている。

譜例 1) のモルデントは通常記号の下に記されている音から開始する。

譜例 1)

ノクターン Op9-2



ショパンは他に譜例 2) の書き方もしている。

譜例 2)

ノクターン Op37-2



同じ開始の仕方をするとしたらなぜ、ショパンは2つの書き方をしたのであろうか。という

<sup>1)</sup> 静岡大学大学院教育学研究科

<sup>2)</sup> 静岡大学大学院教育学研究科

疑問が生ずる。又、ここにはモルデントにおいて先取か拍に合わせるか、の問題もある。

トリルについてみると、ショパンはその開始をいろいろに示している。

譜例 3)

ノクターン Op9-2



譜例 4)

ノクターン Op55-2



譜例 5)

ノクターン Op62-1



これらのトリルの奏法においては一定の定説はあるものの、演奏上の相違をみることがある。譜例 6) はアルペジオの例で、ショパンのレッスン用楽譜に記されているものである。これによるとアルペジオの開始を低音の第1拍に合わせるように示しているが、演奏においては先取のケースも見られる。

譜例 6)

ノクターン Op15-1



上記の課題を踏まえ、本論ではショパン国際ピアノコンクールの優勝者の奏法を紐解くことにより、装飾音についてどのような奏法が国際舞台で評価の対象になっているのかを考察し、ショパン演奏の解釈の指針としたい。現在まで17回行われたコンクールの音源をもとに各演奏者について主な箇所をピックアップして考察を進めることとした。

## Ⅱ. 考察

### ① Lev Oborin 第1回優勝者(1927年) ロシア/モスクワ

譜例 7) ノクターン 嬰ハ短調 遺作 第11小節



この前打音は、1 拍目の頭に合わせて演奏している。また、このトリルは譜例 8) のような奏法であり、Dis の上の補助音である E から弾き始めている。

譜例 8)



譜例 9) ノクターン 嬰ハ短調 遺作 第24小節



この前打音は、拍の前に出して演奏している。

譜例10) ノクターン 嬰ハ短調 遺作 第5小節



このトリルは、書いてある Fis から弾き始めている。

## ② Alexandre Uninsky 第2回優勝者(1932年) ウクライナ／キエフ

譜例11) マズルカ 嬰ハ短調 作品 6 - 1 第45小節



この前打音は、拍の前に出して演奏している。彼の場合、このように前打音を拍の前に出して演奏している例が顕著に表れている。

譜例12) ノクターン 嬰ハ長調 作品15- 2 第7小節



このトリルは、書いてある Gis から弾き始めている。

譜例13) ノクターン 嬰ハ長調 作品15- 2 第56小節



このトリルは、譜例 8) のような奏法であり、Gis の上の補助音である Ais から弾き始めている。  
また、開始音の Ais を 2 拍目の頭に合わせて演奏している。

## ③ Yakov Zak 第3回優勝者(1937年) ソヴィエト連邦／オデッサ

譜例14) ノクターン ト短調 作品37-1 第8小節



この前打音は、3拍目の頭に合わせて演奏している。また、このトリルは譜例8)のような奏法であり、Aの上の補助音であるBから弾き始めている。彼の場合、このようなトリルを書いてある音の上の補助音であるから弾き始めている例が多く見られる。

譜例15) ノクターン ト短調 作品37-1 第18小節



この前打音は、拍の前に出して演奏している。彼の場合、このように前打音を拍の前に出して演奏している例が顕著に表れている。

譜例16) 華麗なる大円舞曲 ヘ長調 作品34-3 第95小節



このトリルは、書いてあるEから弾き始めている。

## ④ Bella Davidovich 第4回優勝者(1949年) アゼルバイジャン／バクー

譜例17) スケルツォ第4番 ホ長調 作品54 第65小節



この前打音は、拍の前に出して演奏している。彼女の場合、このように前打音を拍の前に出して演奏している例が顕著に表れている。

譜例18) 3つのエコセーズ ニ長調 作品72-3 第11小節



このトリルは、書いてあるCisから弾き始めている。1拍目の裏の8分音符に、Cis-D-Cis-Hの4つの音を32分音符で弾いていることから、プラルトリラーとして弾いていると考えることができる。

譜例19) 3つのエコセーズ ニ長調 作品72-3 第9小節



このトリルは、書いてあるFisから弾き始めている。  
2拍目の8分音符の前にFis-Gの2つの音、2拍目の8分音符の頭に合わせてFisの音を弾いていることから、プラルトリラーとして弾いていると考えることができる。彼女の場合、このようにトリルをプラルトリラーとして弾いている例が多く見られる。

⑤ Halina Czerny-Stefańska 第4回優勝者(1949年) ポーランド/クラクフ

譜例20) マズルカ ハ長調 作品68-1 第5小節



この前打音は、拍の前に出して演奏している。彼女の場合、このように前打音を拍の前に出して演奏している例が顕著に表れている。

譜例21) マズルカ 変ロ長調 作品7-1 第3小節



このトリルは、書いてあるBから弾き始めている。2拍目の4分音符の前にB-Cの2つの音、2拍目の4分音符の頭に合わせてBの音を弾いていることから、プラルトリラーとして弾いていると考えることができる。彼女の場合、このようにトリルをプラルトリラーとして弾いている例が多く見られる。

⑥ Adam Harasiewicz 第5回優勝者(1955年) ポーランド/ホジェシ

譜例22) ノクターン ロ長調 作品62-1 第34小節



この前打音は、1拍目の頭に合わせて演奏している。

## 譜例23) ノクターン ロ長調 作品62-1 第15小節



この前打音は拍の前に出して演奏している。彼の場合、このように前打音を拍の前に出して演奏している例が顕著に表れている。

## 譜例24) ノクターン ロ長調 作品62-1 第50小節



このトリルは、書いてある Cis から弾き始めている。

## 譜例25) ノクターン ロ長調 作品62-1 第74小節



この前打音は、1 拍目の頭に合わせて演奏している。また、2 拍目からのトリルは1 拍目からの連続で、Gis - Fis…と演奏している。

## ⑦ Maurizio Pollini 第6回優勝者(1960年) イタリア／ミラノ

## 譜例26) ポロネーズ 嬰へ短調 作品44 第10小節



この前打音は、1 拍目の頭に合わせて演奏している。彼の場合、このように前打音を拍の頭に合わせて演奏している例が他の演奏家に比べて多く見られる。  
また、このトリルは譜例8) のような奏法であり、Fis の上の補助音である Gis から弾き始めている。



譜例27) ソナタ第2番 変ロ短調 作品35 第3楽章 第4小節



この前打音は、拍の前に出して演奏している。

譜例28) ポロネーズ 嬰へ短調 作品44 第12小節



このトリルは、書いてあるAから弾き始めている。

⑧ Martha Argerich 第7回優勝者(1965年) アルゼンチン／ブエノスアイレス

譜例29) ノクターン 変ホ長調 作品55-2 第1小節



この前打音は、7拍目の頭に合わせて演奏している。また、このトリルは譜例8)のような奏法であり、Dの上の補助音であるEsから弾き始めている。

譜例30) ノクターン 変ホ長調 作品55-2 第41小節



この前打音は、拍の前に出して演奏している。彼女の場合、このように前打音を拍の前に出して演奏している例が顕著に表れている。

譜例31) 舟歌 嬰へ長調 作品60 第20小節



この前打音は、10拍目の頭に合わせて演奏している。また、このトリルは書いてあるDisから弾き始めている。



## ⑨ Garrick Ohlsson 第8回優勝者(1970年) アメリカ／ニューヨーク

譜例32) ノクターン 変ホ長調 作品55-2 第1小節



この前打音は、7拍目の頭に合わせて演奏している。  
また、このトリルは譜例8)のような奏法であり、D  
の上の補助音であるEsから弾き始めている。

譜例33) ノクターン 変ホ長調 作品55-2 第41小節



この前打音は、拍の前に出して演奏している。

譜例34) ソナタ第3番 口短調 作品58 第1楽章 第197小節



この低音部のトリルは、書いてあるFis  
から弾き始めている。

## ⑩ Krystian Zimerman 第9回優勝者(1975年) ポーランド／ザブジェ

譜例35) スケルツォ第4番 ホ長調 作品54 第65小節



この前打音は、拍の前に出して演奏している。  
彼の場合、このように前打音を拍の前に出して演奏している例  
が顕著に表れている。

譜例36) バラード第4番 ヘ短調 作品52 第50小節



このトリルは、書いてあるGから弾き始めている。

譜例37) バラード第4番 ヘ短調 作品52 第112小節



この低音部のトリルは、書いてあるAsから弾き始めている。2拍目の8分音符に、As - B - Asの3つの音を弾いていることから、プラルトリラーとして弾いていると考えることができる。

# ⑪ Dang Thai-Son 第10回優勝者(1980年) ベトナム／ハノイ

譜例38) ノクターン Op.27-2



彼は、譜例38) のトリルを記号の下に記されている音から開始している。

譜例39) ノクターン Op.62-2



ここではトリルの前の前打音が第3拍の頭と一致し、トリルは記号の下に記されている音から開始している。

## 譜例40) バルカロール Op.60



トリルの前の前打音があることにより、トリルは上音から開始している。譜例41)の奏法。

## 譜例41)



## 譜例42) スケルツォ Op.31



譜例41)と同様。  
トリルは上音から開始している。

## ⑫ Stanislav Bunin 第11回優勝者(1985年) ロシア／モスクワ

## 譜例43) スケルツォ Op.54



彼は、装飾音を低音の第1拍よりも先取している。

## 譜例44) スケルツォ Op.54 譜例45)



譜例44)の場合では譜例45)のように弾いており、3つの音は低音の第1拍よりも先取している。

譜例46) バラード Op.52



トリルの記号の下に記されている G から開始している。

譜例47) グランドワルツ Op.34-3



ここではトリルの前の前打音があることにより、譜例48) のようにトリルは上音から開始している。したがって低音の第1拍とトリルの上音である F の音が一致している。

譜例48)



⑬ Kevin Kenner 第12回優勝者(1990年) アメリカ／カリフォルニア

譜例49) スケルツォ Op.39



トリルの前の前打音によってトリルは上音から開始している。譜例50) の奏法をとり、前の2つの音は先取している。

譜例50)



譜例51) 即興曲 Op.36



この場合でもトリルは譜例52) のように上音から開始しており、第3拍頭とトリルの上音である Ais が一致している。

譜例52)



譜例53) バラード Op.52



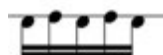
トリルの記号の下に記されている音から開始している。

譜例54) バラード Op.52



このような短いトリルでは、譜例55) のように演奏している。

譜例55)



⑭ Alexei Sultanov 第13回優勝者(1995年) ウズベキスタン／タシケント

譜例56) ソナタ Op.58



譜例57) の奏法。トリルは上音から開始しており、第3拍の低音とトリルの上音となる Fis が一致している。

譜例57)



譜例58) ソナタ Op.58



低音部トリルの奏法は、トリルの前の前打音によって譜例59) のように上音から開始している。

譜例59)



譜例60) ポロネーズ Op.53



このような短いトリルでは譜例61) のように演奏している。

譜例61)



譜例62) ポロネーズ Op.53



トリルの前の前打音によってトリルは上音から開始しており、低音とトリルの上音であるFと一致している。トリルの前後の装飾音を含めると、譜例63) のように演奏している。

譜例63)



⑮ Philippe Giusiano 第13回優勝者(1995年) フランス／マルセイユ

譜例64) バルカロール Op.60



ここは高音部第1拍の前打音では低音部の第1拍に一致させているが、他の前打音は低音と一致することなく先取している。

譜例65) マズルカ Op.59-1



前打音の最初の音が第1拍の低音と一致している。



## 譜例66) バルカロール Op.60



ここでは、トリルの前に前打音はないが、トリルは上音から開始しており、トリルの上音である Dis が低音の第10拍と一致している。

## 譜例67) マズルカ Op.59-1



ここでは、トリルの前に前打音があることによりトリルは譜例68) のように上音から開始しており、第2拍の低音とトリルの上音である Gis が一致している。

譜例68)



## ⑯ Yundi Li 第14回優勝者(2000年) 中国／重慶

## 譜例69) ノクターン Op.48-1



この前打音を伴うトリルは譜例70) のように上音から開始している。

譜例70)



## 譜例71) ベルセウス Op.57



ここでは前打音が第1拍の低音の拍の頭と一致しているだけでなく、その後の前打音も同様一致している。

譜例72) 華麗なる大ポロネーズ Op.22



ここでは前打音は第1拍に一致することはなく、先取している。

譜例73) 華麗なる大ポロネーズ Op.22



ここでは前打音は先取されている。前打音に続くトリルはCから開始しており、第1拍の低音と一致している。

⑰ Rafał Blechacz 第15回優勝者(2005年) ポーランド／クヤヴィ・ポモージェ

譜例74) 6つのプレリュード Op.28-10



トリルの前にある前打音によって譜例75)のように上音から開始している。

譜例75)



譜例76) ノクターン Op.62-1



ここでは、前打音が第1拍の低音と一致しており、先取していない。

## 譜例77) ワルツ Op.64-1



ここではモルデントを譜例78) のように演奏している。

譜例78)



## 譜例79) ワルツ Op.64-1



しかしこの箇所ではモルデントを譜例80) のように演奏している。

譜例80)



## Ⅲ. 考察のまとめ

前半の考察は笹瀬奏子、後半は森角敦が担当し、柳沢は全体の監修を行った。音源の聴き取り作業を行って行く中で、明確に音の流れを把握できるところと判断がしにくいところがあったが、リピートをしながら聴いていくことでかなり正確な判断が出来たように思う。

考察を通してみると、装飾音において2つの奏法に大きく分けることが出来る。一つは前打音の最初の音を拍の頭に合わせる奏法。もう一つは前打音を先取して演奏する方法である。ウィーン原典版の装飾に関する注解をみると、ほとんどが前打音の最初の音を拍の頭に合わせる奏法を示している。装飾法についての歴史を紐解くとき、古くは前打音の最初の音を拍の頭に合わせる奏法が普通であった、と解釈して良いようだ。それが、時代の流れの中で先取の奏法が生まれ、普遍化していったものと思われる。演奏者によって古くからの奏法を基に演奏している人、あるいは新しい奏法を基に演奏している人、といろいろである。一昔前の演奏家の自由な解釈が謳歌され、種々の校訂版が出版された時代からみると、現代は原典版が重視され、作品の真の姿をよみがえらせようとする時代を迎えている。そういった流れの中で装飾音がどのように扱われているのか、が今回の考察課題であった。

ショパンはバッハの作品をよく弾いていた、と伝えられている。装飾の奏法についてもバロック時代の流れを受け継いでいたことと思われ、それは彼のレッスンにおける筆跡にも表されている。しかしながらバッハの演奏様式がその後、時代の中で変化していったことも考慮しておかなければならない。そのところについては、「バッハの装飾音について：静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）第57号」で述べた。

今回の考察の対象は優勝者という限られた演奏者であり、演奏作品も限られた中でのもので

あったが、ショパンの装飾法に関する認識を新たにし、現代における演奏様式の多様性について明らかにすることが出来たように思う。今後の課題として、自らの演奏様式の確立を目標にして研鑽していきたいと思う。

### 音源資料

CD : FRYDERYK CHOPIN INTERNATIONAL CHOPIN PIANO COMPETITIONS  
ZWYCIEŻCY/THE WINNERS PNCD BOX 0001 2010 Polskie Nagrania

### 楽譜の出典

譜例 1)、2)、3)、4)、5)、6)、7)、9)、10)、12)、13)、14)、15)、22)、23)、24)、  
25)、29)、30)、32)、33)、38)、39)、69)、76) : Chopin Nocturnes Ekier Wiener Urtext  
Edition UT50065 音楽之友社

譜 例11)、20)、21)、65)、67) : CHOPIN Mazurken G.HENLE VERLAG MÜNCHEN (264  
1975)

譜例16)、47)、77)、79) : CHOPIN Walzer G.HENLE VERLAG MÜNCHEN(131 1978)

譜例17)、35)、42) 43)、44)、49) : CHOPIN Scherzi G.HENLE VERLAG MÜNCHEN (279  
1973)

譜 例18)、19)、40)、64)、66)、71) : CHOPIN Klavierstücke G.HENLE VERLAG  
MÜNCHEN(318 1978)

譜 例26)、28)、31)、60)、62) : CHOPIN Polonaisen G.HENLE VERLAG MÜNCHEN (217  
1969)

譜例27)34) : パデレフスキ編集 ショパン全集VI ソナタ 財団法人ジェスク音楽文化振興会 アー  
ツ出版 1993

譜例36)、37)、46)、53)、53)、54) : Chopin Balladen Ekier Wiener Urtext Edition UT50100  
音楽之友社

譜例51) : CHOPIN Impromptus G.HENLE VERLAG MÜNCHEN[235]1971

譜例56)、58) : パデレフスキ編集 ショパン全集VI ソナタ 財団法人ジェスク音楽文化振興会  
アーツ出版 1993

譜例72)、73) : 井口基成編集 ショパン集5 春秋社 1980年

譜例74) CHOPIN Préludes G.HENLE VERLAG MÜNCHEN[73]1968